



わたしたちは、支援を「する」



【宮古島市の児童館は6館】

直営：2館、委託・指定管理：4館

上野児童館



池間添児童館



佐和田児童館



ぐすくべ児童館



下地児童館



ひらら児童館



はなれてたって。あえなくたって。
ほら、いつだって ころころはつながってるよ。
こまったときは、わたしたちは ちゃんと ここにいます。



宮古島市児童館連絡協議会
MIYAKOJIMA CITY CHILDREN'S CENTER ASSOCIATION



宮古島市ひらら児童館のこと



こどもが創る「^{あす}未来」を支える。

一般社団法人

こども未来創造
こども未来創造

創造支援機構

すべてのこどもに「たべる・あそぶ・まなぶ・あいされる」を
保障する社会づくりを目指す

「なにかあったら、いらっしやい。なにもなくても、いらっしやい。」
という地域にひらかれた居場所づくりを目指す

「こどもが、こども時代を、こどもらしく過ごす」
ことができる第三の居場所づくりを目指す

なにかあったら、
いらっしやい。

なにもなくても、
いらっしやい。

みんなの“居場所”は、ここに 있습니다



そこが「居場所」かどうかは、
だれが決めるの？

ふらっと (flat) いこう！

ふらり 寄りたくなる、
そんな空間に…

「たべる・あそぶ・まなぶ・あいされる」が保障される居場所

たべる…すべては、おなかが満たされてこそ“ほっ”とできる。

あそぶ…安心・安全を感じる環境のなかで夢中になれる遊びは、
子どものさながらの生活そのもの。

まなぶ…体験と感情の共有を重ねて、

人と人との関わり合いの過程で得られるもの。

あいされる…ひとりひとりが、たったひとりの“あなた”。

自分が大切にされるから、ひとを大切にできる。

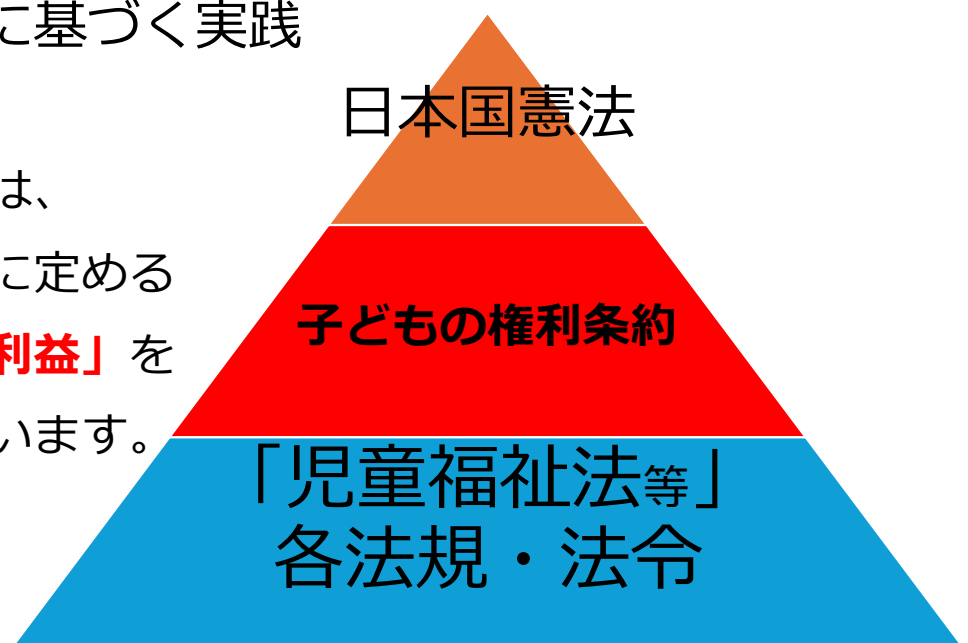
Evidence Based Practice

= 根拠に基づく実践

すべての取り組みは、

子どもの権利条約に定める

「子どもの最善の利益」を
第一に考慮して行います。



【活動（行事等）の考え方】

- ・ 利用者の主体性を支援しながら、
それぞれの創造するイメージを実現させる。
- ・ 子どもの自発的自由な活動だけでは経験し難い
体験活動を取り入れた取り組み等を企画し、実施する。
- ・ 「施設が主体となって参加する」活動から、
「子どもも保護者も地域も主体となり参画する」取り組みへ。

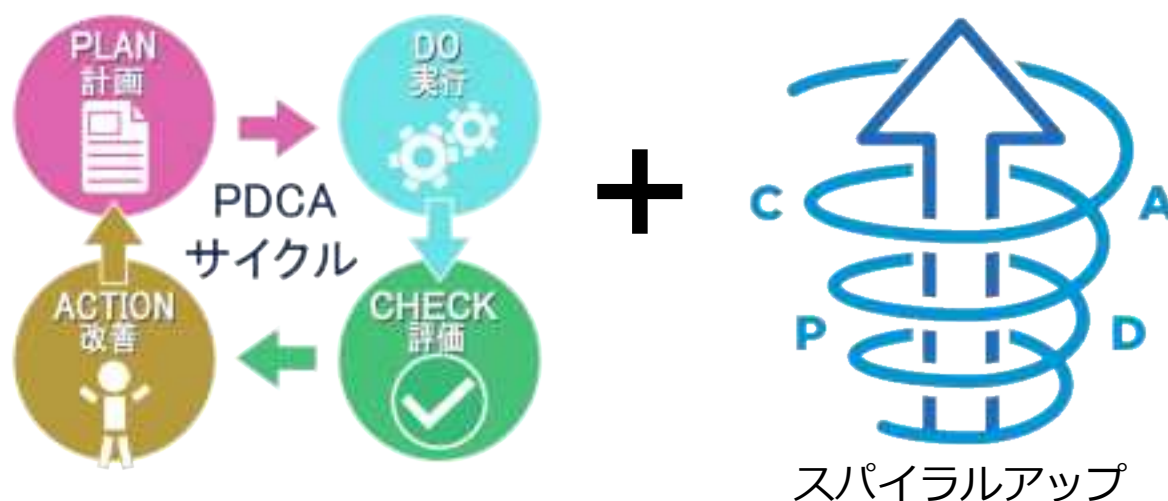


僕らが、とにかく実践していること。
それは…

T ・ T ・ P

（徹底的にパクってみる）

しかし、ただパクっているわけではなく…



自分たちの文化（施設の物的・人的環境、地域、etc...）に合わせていく！

【出張型あそびのひろば「おでかけマルシェ」】

- ・ 保護者が仕事で子どもの送迎ができない…
- ・ 誰かと話がしたいけど、人が多い場所が苦手…
- ・ 車での移動が難しくて、地域から出る機会が少ない…

『はなれてたって。
あえなくたって。
ほら、いつだって、
こころは つながってるよ。』

地域の公民館等で展開する
“あそび”空間の提供と共有



スポーツでもない。遊びでもない。
子どもの可能性を引き出す
運動遊びプログラム
ジャンジャン
JUMP-JAM

【まちのプレーパーク】

可能性は無限大

つまりなにが言いたかったかというと

自由に遊ぶってこと

それが、自分の責任で

失敗もケガも自分のもの

自由だけど、その代わり

自由なんだよ

なんにもしなくても

なにをつかって

なにをしても

いつやめてもいい

いつ来てもいい

誰が来てもいい

自由な遊び場

ここはみんなでつくる

写真：繁多川公民館出張プレーパーク（2022.12.11）
子どもの権利条約フォーラム2022in那覇/沖縄



【子どもだからこそ本物の体験を。「プロジェクト・アプローチ」】

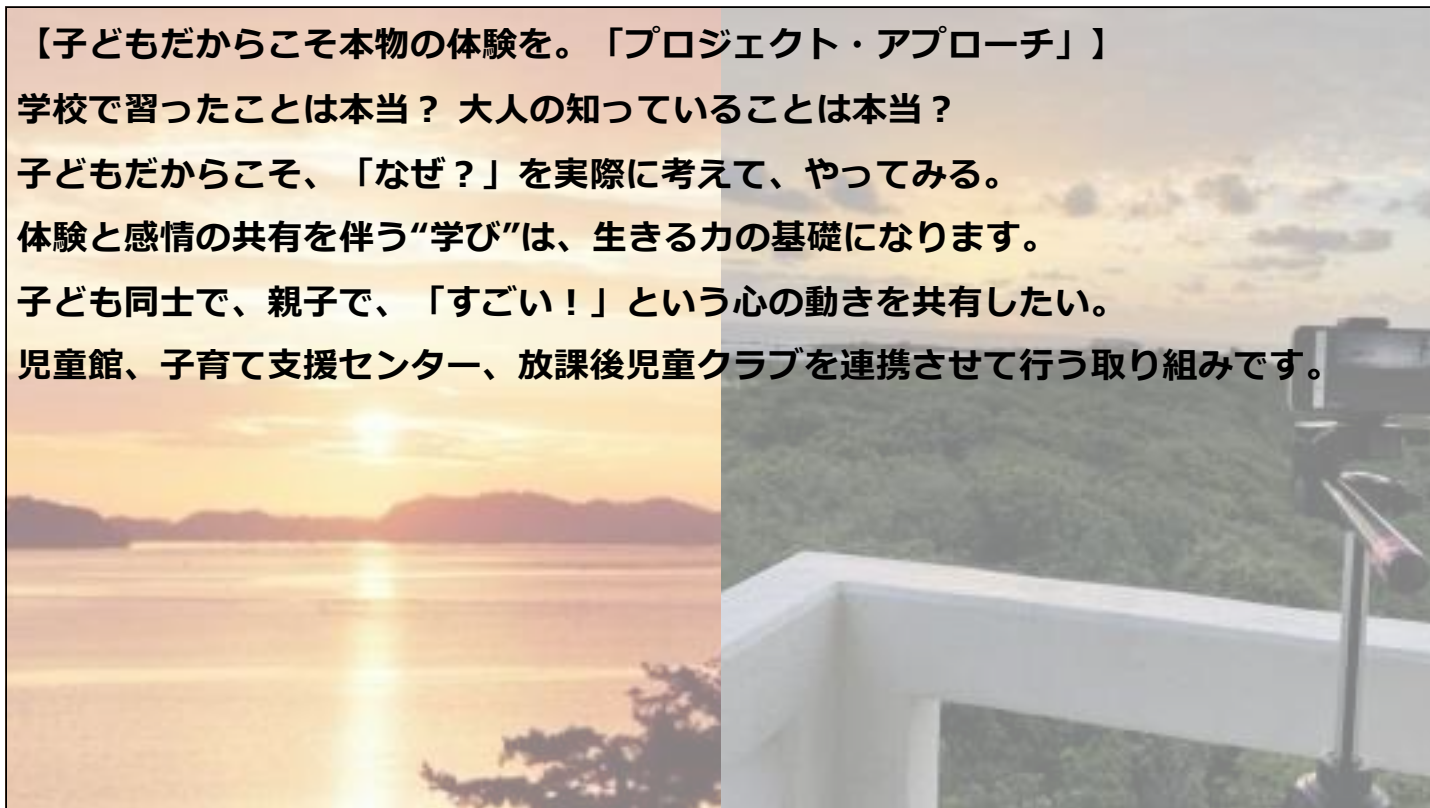
学校で習ったことは本当？ 大人の知っていることは本当？

子どもだからこそ、「なぜ？」を実際に考えて、やってみる。

体験と感情の共有を伴う“学び”は、生きる力の基礎になります。

子ども同士で、親子で、「すごい！」という心の動きを共有したい。

児童館、子育て支援センター、放課後児童クラブを連携させて行う取り組みです。



ゴールデンウィークは、親子で地球の裏側へ行こう！
オンラインワールドツアー
in **アマゾン**

せっかくの連休も、コロナでできないことがたくさん…

でも、子どもの遊びは「必要不休」です！
子どもたちの豊かな生活に必要な、“遊び”をとめない！
そんな想いを込めて、大人からのプレゼント企画をスタートしますよ！(´▽`)
ZoomかYoutubeLiveを使って、オンラインでアマゾンへ旅行へ行きましょう！
宮古で太陽が沈む時、地球の裏側のアマゾンでは太陽が昇るのか？
さあ、大人も子どもも、ドキドキワクワクの連休を過ごしましょう！

日時 事前学習会：2021年5月1日(土) 15:30～
ツアー当日：5月2日(日) 19:00出発！
会場 事前学習会：ひらら児童館 遊戯室
ツアー当日：ZoomかYoutubeLiveで みんなのおうち！
主催 一般社団法人沖縄こども未来創造支援機構

5/1 事前 学習会	アマゾンって、どこにあるの？どんなところ？ 知れば知るほど行きたくなくなっちゃうよ！ お話し 岩本 大輔さん(わかし、アマゾンで暮らしていたことがあるよ！)
5/2 ツアー 当日	宮古で太陽が沈む時、アマゾンで太陽が昇るか！？ さあ、マナウスの街の市場へ出かけよう！ 案内 島 準さん(アマゾンに住んでいるよ！みんなを案内してくれます！)

☆参加をご希望の方は下記よりお申込みください☆

申込フォーム <https://forms.gle/WTuDh3xtzQfaacgv9>
※右のQRコードからもアクセスできます。

参加
無料

【必要不休の遊びをとめない！プロジェクト】





【中高生世代の第三の居場所「サード・プレイス」】

家庭や学校のような“向き合う関係”とは違う

“ナナメの関係”だからこそできる支援のカタチがあります。

運動、学習、読書…なにをしてもいいし、なにもしなくてもいい。

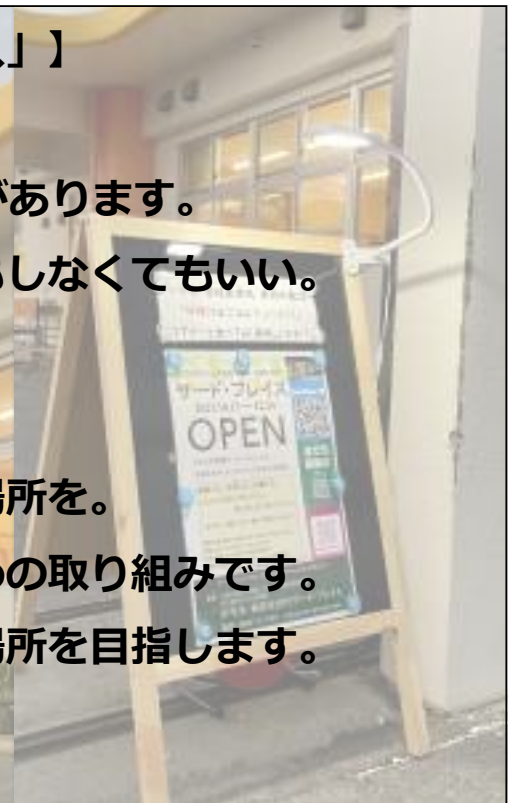
学校の帰りでも、学校へ行けていなくても。

進学しなかった子も、進学できなかった子も。

すべての子どもに、安心して自分でいられる居場所を。

不登校の支援ではなく、**「独りにさせない」**ための取り組みです。

関係機関とも連携し、誰ひとり取り残さない居場所を目指します。



宮古島市ひらら児童館 中学生・高校生世代

サード・プレイス

<令和4年度継続中>

OPEN

ひらら児童館サード・プレイスは、
中高生世代のための特別な居場所。

運動でも、学習でも、読書でも。
したいことをしてもいいし。
なにもしなくていいし。

まずは〜と覗いてみて意外に面白いかもよ？

時間：毎週水曜日・金曜日18:00～21:00（中学生は20:00まで）
料：無料、Wi-Fiも無料で利用は無料です
※利用には利用登録が必要です。中高生世代は誰でも利用できます。
※登録料は1人1つの登録料をもち、もちろんです。
※利用は、1人1つの登録料をもち、もちろんです。

サード・プレイスでは、軽食の提供とFree Wi-Fiが使えます！

運営：一般社団法人沖縄こどもみらい創造支援機構
宮古島市ひらら児童館
中学生・高校生世代サード・プレイス
電話：0980-73-1481（宮古島市平良平良郵便局607番地）

twitter

友だち募集



「ROOTER（ルーター）」は、
“根を張る（root）”と
“つながる（Wi-Fiルーター）”という
2つの意味をもつ、
夜間の居場所プロジェクトの愛称です。

家庭でも学校でもない、
もう一つの場所。
夜の時間、ひらら児童館がそっと開かれ、
「なにかをしてもいい、なにもしなくてもいい」
という心で中高生世代が過ごせる場所。
この居場所は、

- ・誰かと話すもよし
- ・一人で静かにいるもよし
- ・考えごとをするもよし

「自分の“根”を静かに張りながら、
ゆっくりと未来につながっていく」
そんな時間と空間を大切にしています。

6. 子どもの事業 **④ 地域関係強化の取組**

児童館を拠点に中・高校生世代のコミュニティをつくる取組 **活動対象** 中・高校生世代

【児童館の概要】

名	新	ひらら児童館
所	所	沖縄県宮古島市(人口約3.8万人) 総合センター敷地内
設置主体	設置主体	公益民営
児童館種別	児童館種別	小型児童館

取組内容

- 12/13～12/24の期間で、中・高校生世代専用タイムを設定。
サード・プレイスと名付け、毎週水曜日の18:00～20:00に児童館の夜間開放を実施。
- 中学生の利用は19:00までとし、中・高校生世代に友人同士での遊びや雑談との交流など、思い思いに過ごせる場を提供。
- 地域関係者の協力を得て、おにぎりやカップ麺などの軽食の提供を実施。
- 家庭のきょうけつづくりのため、近隣の学校や公民館、図書館にポスター掲示の協力を依頼し、サード・プレイスの周知啓発を行う。
- サード・プレイスを活用した中・高校生世代に対しアンケート調査を実施し、利用者ニーズと課題をヒアリング。
- ヒアリングの内容から児童館における中・高校生世代の居場所の必要性について考察し、取組みの継続性について検討。

この事業をきっかけに、児童館と行政との連携がより近いものになったように感じます。令和4年度以降も事業を継続し、今年度より児童館事業として予算化され、実施回数と時間が拡充されました。

児童館における福祉的課題を抱える子育て家庭への支援に関する調査研究

6. 子どもの事業 **④ 地域関係強化の取組**

取組のポイント **協力機関** 市内中学校・高等学校・公民館・図書館・地域協賛者

【1】中高校生タイムの確保

- 児童館運営を行うことで中・高校生世代だけでなく誰もが利用できる、ホステスにも「毎週な居場所」という意識が広がり、中・高校生世代にとって過ごしやすい居場所として認識され、継続的な取組みを希望する声もあがっている。
- サード・プレイスを活用した取組を実施する前週土曜日の夜間、イベントを企画・運営。子供たちや保護者が集まり、中・高校生世代の居場所づくりの場となった。

【2】教育機関との連携

- 近隣の中学校の協力を得て、ホステス一般や中学生への案内の機会を設定。児童館での生活からは、気になる質問に対して個別にサード・プレイスの情報を案内していった。
- サード・プレイスがきっかけで中学校の中学生同士が交流し、児童館が通学帰りの集まりの場として定着していきつつあり、交流を必要とする子どもの居場所が広がった。

【3】軽食の提供

- 児童館の設備を整えつつ、中・高校生世代の卒業が近づく、軽食で交流がもたらえるという趣旨が伝わり、友だち同士で集まるようになっていった。
- 近所やふりかけ、みそ汁、カップ麺などを提供し、一部の食材については地域関係者から無償で提供を受けるなど、交流の輪が広がった。

【4】職員カンファレンスの実施

- 児童館、中・高校生世代との関係、児童館の運営方法などについて職員カンファレンスにて検討を重ねた。ホステスの内容は、中・高校生世代の要望も取り入れながら、地域関係者の意見も実施。利用者の様子は積極的に共有し、取組の振り返りについて意になる点があれば職員間で話し合いをした。

サード・プレイス OPEN

児童館の夜間開放(18:00～20:00) 毎月水曜日

児童館の夜間開放(18:00～20:00) 毎月水曜日



ぼくがここに まど・みちお

ぼくがここにるとき
ほかのどんなものも
ぼくに かさなって
ここに いることは できない
もしも ゾウが ここに いるならば
そのゾウだけ
マメが いるならば
その一つぶの マメだけ
しか ここに いることは できない
ああ このちきゅうの うえでは
こんなに だいじに
まもられているのだ
どんなものが どんなところに
いるときにも
その「いること」こそが
なににも まして
すばらしいこと として

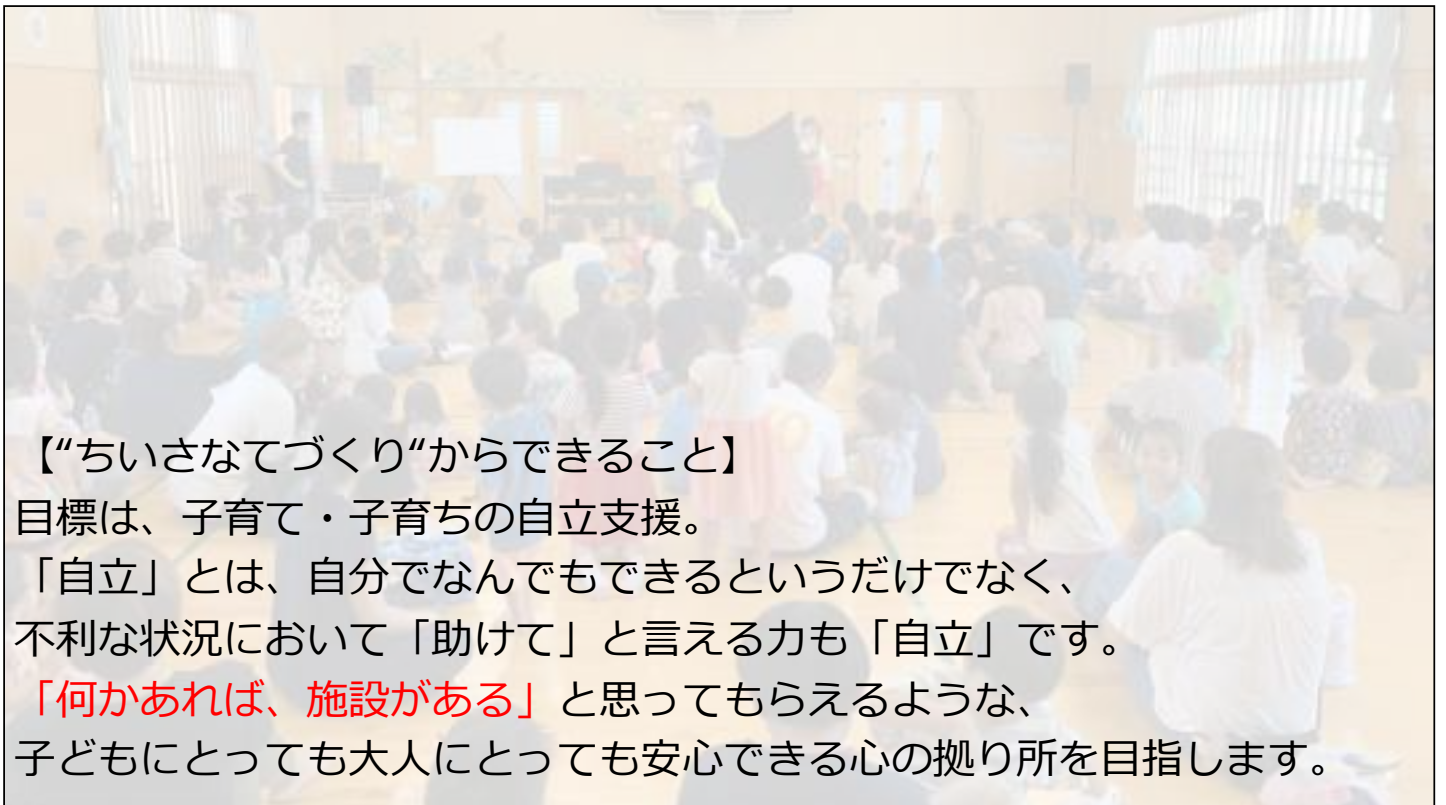


【“ちいさなてづくり”からできること】

目標は、子育て・子育ての自立支援。

「自立」とは、自分でなんでもできるというだけでなく、
不利な状況において「助けて」と言える力も「自立」です。

「何かあれば、施設がある」と思ってもらえるような、
子どもにとっても大人にとっても安心できる心の拠り所を目指します。



ちいさなてづくり
あきまつり

日時：2022年11月18日(土)午後3時～5時
場所：ひらら児童館正面広場

このあきまつりは、
子どもと保護者、地域のみなさんがお互いに助け合う機会をとおして、地域の
大人に地域の子どもを知ってもらい、地域の子どもに地域の経験できる大人を
知ってもらうことを目的に開催します。

※出し物いろいろ※

- 遊びブースは3種類！(ローヨー釣り、ビンゴ、ドラえもんフリスビー)
- カラオケ大会は、誰でも参加できます！(事前に児童館で申し込みね！)
- ステージでは、高学年のバンド演奏や、ダンス、レオクラブバンドが
出演します！そして、ひららの児童とてくべの経験が聞かれる！
- 来場の子どもには、皆でお願いするおやつをプレゼント！
- クイズ・クイズ・クイズ

当日の15:00から、おやつをさらに盛り上げるステージがあります！
えが学校会館バンドによる演奏を、ぜひお楽しみください！

このあきまつりに
ご参加の方には、マスのを配布してあります。
ご入場時に、受付でお名前のお記入をお願いします。
ご来場の際は、お名前を記入していただくようお願いいたします。

主催：一般社団法人児童館こどもみらい創造支援機構
協賛：ひらら児童館
お問い合わせ：0980-73-1481 (ひらら児童館)

子どもが
「あきまつり」

ちいさな
てづくり
クリスマス

12/18(土) 17:00-19:00
会場：ひらら児童館

入場無料

ステージ
レオクラブ
バンド

DAM
カラオケ大会

ステージ
パフォーマンス

ステージ
アウトちゃん
と
シムル

子どもが
「あきまつり」

主催：一般社団法人児童館こどもみらい創造支援機構
協賛：ひらら児童館
お問い合わせ：0980-73-1481 (ひらら児童館)

ちいさなてづくり
あきまつり

日時：2022年11月18日(土)午後3時～5時
場所：ひらら児童館正面広場

このあきまつりは、
子どもと保護者、地域のみなさんがお互いに助け合う機会をとおして、地域の
大人に地域の子どもを知ってもらい、地域の子どもに地域の経験できる大人を
知ってもらうことを目的に開催します。

※出し物いろいろ※

- 遊びブースは3種類！(ローヨー釣り、ビンゴ、ドラえもんフリスビー)
- カラオケ大会は、誰でも参加できます！(事前に児童館で申し込みね！)
- ステージでは、高学年のバンド演奏や、ダンス、レオクラブバンドが
出演します！そして、ひららの児童とてくべの経験が聞かれる！
- 来場の子どもには、皆でお願いするおやつをプレゼント！
- クイズ・クイズ・クイズ

当日の15:00から、おやつをさらに盛り上げるステージがあります！
えが学校会館バンドによる演奏を、ぜひお楽しみください！

このあきまつりに
ご参加の方には、マスのを配布してあります。
ご入場時に、受付でお名前のお記入をお願いします。
ご来場の際は、お名前を記入していただくようお願いいたします。

主催：一般社団法人児童館こどもみらい創造支援機構
協賛：ひらら児童館
お問い合わせ：0980-73-1481 (ひらら児童館)

子どもが
「あきまつり」

にちようかいかん | 2025.9.28.SUN
TIME TABLE

時間	内容	内容	内容
9:00	9:00-9:30 受付開始	9:30-10:00 子育て講座	
10:00	10:00-10:30 おやつタイム	10:30-11:00 おやつタイム	10:30-11:00 おやつタイム
11:00	11:00-11:30 おやつタイム	11:30-12:00 おやつタイム	11:30-12:00 おやつタイム
12:00	12:00-12:30 おやつタイム	12:30-13:00 おやつタイム	12:30-13:00 おやつタイム
13:00	13:00-13:30 おやつタイム	13:30-14:00 おやつタイム	13:30-14:00 おやつタイム
14:00	14:00-14:30 おやつタイム	14:30-15:00 おやつタイム	14:30-15:00 おやつタイム
15:00	15:00-15:30 おやつタイム	15:30-16:00 おやつタイム	15:30-16:00 おやつタイム
16:00	16:00-16:30 おやつタイム	16:30-17:00 おやつタイム	16:30-17:00 おやつタイム
17:00	17:00-17:30 おやつタイム	17:30-18:00 おやつタイム	17:30-18:00 おやつタイム

※お問い合わせ：0980-73-1481 (ひらら児童館)

【地域人材の参画】

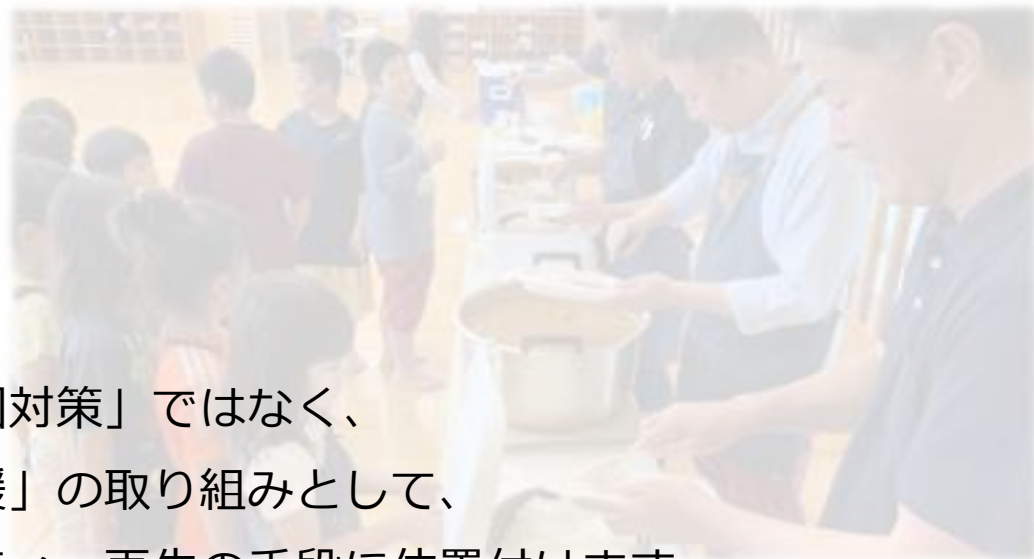
人と人との関係性における「体験と感情の共有」を通して、
「地域の大人が地域の子どもを知る。」

地域の子どもが地域の信頼できる大人を知る。」
そのきっかけづくりの手段として位置付けます。

豊かに生きること。
それは、「時間と関係」。
人と人とのつながり。

「すごいね！」
「うれしいね！」
「たのしいね！」

おとなも、子どもも、
みえない“心”を共有すること。



【子ども食堂】

「子どもの貧困対策」ではなく、
「孤立防止支援」の取り組みとして、
地域コミュニティ再生の手段に位置付けます。
目指すのは「地域のおとなが心をよせて取り組む」仕組みへ。
テーマは「みんなでたべるしあわせ」



この実践報告では…

児童館は、地域子どもたちが安心して過ごせる場であり、健全な成育を支える重要な役割を担っている。

しかし、当館を利用する児童の中には、不登校傾向や素行不良が見られる児童もあり、社会的適応能力や規範意識の形成に課題を抱える事例も散見される。

この報告では、そうした児童に対する具体的な支援の実践事例を通じて、子どもたちが道徳性や豊かな人間性を育み、健全な成育へ向かうためのアプローチについて考察する。

背景（対象児童の特徴と問題行動）

対象児童の多くは、不登校傾向を抱え、学校生活から距離を置いている状況が見られる。

特に次のような問題行動が確認されている。

- 学校を無断で抜け出して児童館を訪れる
- 児童館内の飲食禁止区域での飲食（スナック菓子やジュース等）
- 施設内の棚や柵への登攀、無断での自転車乗り入れや暴走行為
- 児童館内でのピアスの施術
- 物品窃盗などの行動（万引き行為）

実際の盗難自転車



背景（対象児童の特徴と問題行動）

これらの行動の背景には、規範意識の欠如や社会的価値観の未熟さがあると考えられる。

家庭や学校で学ぶべき規範や秩序の機会に乏しく、経験則に基づく道徳性の育成が不十分であるため、問題行動が社会的に許容されるものと誤認されている可能性が指摘される。

この状況を受け、児童が自身の行動を振り返り、規範を理解し、内発的に守ろうとする意欲を高める支援を試みた。

(1) 観察と会話を重視したアプローチ

問題行動が見られた際には、その場で児童本人に対して「なぜその行動をしたのか」といった広い質問を投げかけ、彼らの考えや感情を丁寧に聴き取るよう心がけた。

一方的に指導するのではなく、児童の意見に耳を傾ける傾聴的対話を重視し、自身の行動を振り返る機会を提供した。

(この方法は、ナラティブ・アプローチの視点を取り入れたもの)

(2) 学校との連携強化

児童が学校を無断で抜け出さないよう、学校との密接な連携を図り、児童との合意形成のもと次のルールを設定した。

- 学校から児童館に行きたい場合、担任にその旨を自分の言葉で伝える。
- 学校から児童館に向かう際、学校から児童館へ連絡をする。
- 児童館到着時には、児童館から学校へ到着報告を行う。

この仕組みにより、児童の所在を支援者が把握できるだけでなく、児童自身が生活の見通しを立てたり感情を整理したりする習慣が形成されることを目指した。

(3) 自転車による暴走行為等への対応

施設内での自転車乗り回しを禁止するだけでなく、自転車のメンテナンスが可能なスペースと工具を提供した。

この空間の利用ルールは、児童と意見を出し合い次の3項目に設定した。

- 盗んだ部品や物品を持ち込まない
- 施設内で自転車を乗り回さない
- 使用後は工具や備品を所定の場所へ片付ける

この活動を通じて、児童が主体的にルールを守り、自らの行動を改善しようとする内発的動機づけを促した。

工具類を児童が確認し片付ける取り組みの工夫の例



(1) 問題行動の改善

児童の問題行動に一定の改善が見られた。

具体的には、以前は規範意識を持たず行動していた児童が、規範に反すると考えられる自身の行動を「間違い」と認識していると捉えられる姿が観察され、その際「しまった」という表情を見せる場面が増えた。

これは児童が行動の結果を自覚し、支援者の反応を意識するようになったのではないかと考えている。

(2) 自転車問題の減少

メンテナンススペースの提供をきっかけに、自転車暴走や部品窃盗などの問題行動がほとんど見られなくなった。

さらに、「自分で買った部品だ」と証明するためレシートを持参するなど、児童が支援者に対して自分の行動を肯定的に示す姿勢が見られるようになった。

この変化は、児童の自己肯定感の向上を支援者が肯定的に応答することで促進されたのではないかと考えている。

(3) 支援者との信頼関係の構築

児童の思いや考えに寄り添い、一貫的、継続的、受容的な対応を続けたことで、児童と支援者（施設）との間に信頼関係が形成されてきたように感じる。

この信頼関係が、児童の自尊感情や自己信頼、他者信頼を育む基盤となったのではないかと考えている。

児童とのやり取りから、以前は、施設へ来館する理由について「やることないから」「暇だから」という返答だった。

現在は「（ここに）居たいから来ただけ」「（友達と）約束してるから」など、児童が他者との関わりを求める（叶える）居場所として認識してきたように感じる。

今後の展望と課題

この実践では、児童館という環境での支援活動を通じて、素行不良を抱える児童の社会的適応能力や自己肯定感の向上を図る可能性が示されたにではないかと考えている。

特に、児童を否定的に評価するのではなく、その背景や感情を理解しようとする視点をもって、対話を重視する支援が有効であると考えられる。

また、学校や地域と連携した取り組みを進めることで、児童館が子どもたちの健全な育成を支える拠点として機能する発展性を再確認できた。

今後の展望と課題

今後は、支援者の専門性向上を図るために、現場での実践知を体系化し、それらを理論的に裏付け往還する取り組みに重点を置いてみたい。

また、地域社会全体で子どもたちを支える環境をつくり上げるため、家庭や学校との連携をさらに深められるよう取り組んでいきたいと考えている。



保育も、教育も、支援も、

そう「する」ではなく、そう「なる」こと。

「する」ことは、「なる」ことの手段であって、

「なる」ように「する」のが目的ではない。



はじまりは、いつも“子どもの声”から。

夢を叶える魔法。

それは、あきらめないこと。

あきらめてみても、あこがれていること。

